

## 新 刊 紹 介

Opredelitel' Nasekomykh Dal'nego Vostoka SSSR v Shesti Tomakh. Tom 3. Zhestkokrylye, Ili Zhuki. Chast' 1. [Определитель Насекомых Дальнего Востока СССР в Шести Томах. Том 3. Жесткокрылые, Или Жуки. Часть 1]. Ed. P. A. LERA [П. А. ЛЕРА]. 572 pp. 1989. Nauka, Leningrad.

日本の昆虫相、とくに北海道など北日本の昆虫相の研究に不可欠な、ソ連極東地方の昆虫分類検索第3巻として、いよいよ甲虫類が登場した。3部に分割して出版されるものらしく、このたび刊行された第1部には、甲虫類の概説と、ナガヒラタムシ亜目、オサムシ亜目、ツブミズムシ亜目、およびカブトムシ亜目のうちのダルマガムシ科からコメツキムシ科までが収められている。(ちなみに、第1巻(1986)には昆虫類全体の概説と無翅昆虫類からアザミウマ目まで、第2巻(1988)にはカメムシ目が収載された。)

本文の記事は、12人の研究者の分担執筆で、概説とムクゲキノコムシ科を G. O. KRIVOLUTSKAYA, 科までの検索とエンマムシ上科を O. L. KRYZHANOVSKIJ, ナガヒラタムシ亜目、オサムシ亜目、ツブミズムシ亜目、マルドロムシ科、シデムシ科、タマキノコムシ科、デオキノコムシ科、マルトゲムシ科、ドロムシ上科の大部分などを G. Sh. LAFER, ダルマガムシ科とガムシ科を A. G. SHATROVSKY, アリヅカムシ科とコケムシ科を S. A. KURBATOV, クワガタムシ科とコガネムシ科を科または亜科によって E. Ja. BERLOV, O. I. KALININA および G. V. NIKOLAJEV のだけか、ナガフナガタムシ科など3科を A. B. EGOROV, マルハナノミダマシ科を N. B. NIKITSKY, タマムシ科を A. V. ALEXEEV, コメツキムシ科を E. L. GURJEVA が、それぞれ担当している。

これで、ハネカクシ科を除くコメツキムシ科までの甲虫類のすべてが網羅されたことになり、それぞれの属ごとに、多くの図をともなったかなり詳しい種までの検索表と分布の概略が記述されているので、たいへん使いやすい。しかし、科によっては属までの記述で終わっているものもあり、オサムシ科ミズギワゴミムシ亜科のミズギワゴミムシ族やナガゴミムシ亜科の多くの属のように、種名さえ挙げられていない群も散見される。これらに関する解説は、第2部か第3部に補遺として収載される予定だと記されているが、いずれにしても全篇が完結すれば、日本の甲虫研究者にとってひじょうに便利な、そしてもっとも重要な文献のひとつになることは間違いないだろう。

なお、本書の第2部は、1990年に刊行され、ヒゲブトコメツキ科からハムシ科までが収載されると予告されている。

(上野俊一)